

No	感染症(PT)	出典	概要
22	C型肝炎、HIV感染	共同通信、The New York Times 2007年11月13日	米国シカゴで、2007年1月に臓器移植を受けた患者がエイズウイルスとC型肝炎ウイルスに感染したことが判った。感染した4人は1人のドナーからの臓器提供を受けていた。感染してから検査で判別できない約3週間の「空白期間」に移植が行われたとみられる。臓器移植でエイズウイルスに感染した例は22年ぶりである。
23	E型肝炎	Arch Virol 2007; 152: 1623-1635	日本においてHEVの不顕性感染が増加しているかを調べるため、1991-2006年の献血者のうちHEV感染の可能性のあるALT 61IU/L以上の4019名から得られた血清検体中の抗HEV IgG、抗HEV IgMおよびHEV RNAを調べたところ、2004-2006年の献血者のHEV陽性率は1998年のそれと同等であった。またALT 201IU/L以上の献血者についても1991-1995年、1996-1999年および2004-2006年でHEV陽性率の差は見られなかった。
24	E型肝炎	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1682-1688	中国南部の人々のHEV感染について調べたところ、家の近くでブタを飼っている8つの共同体で得られたHEV分離株24中23はジェノタイプ4株であった。IgG抗HEV血清有病率は、60歳以下では1歳毎に約1%ずつ増加した。30歳以上では血清有病率は女性より男性で高率に増加した。全体の血清有病率は43%であった。感染率は25-29歳で高かった。HEV感染は中国南部では少なくとも60年間、風土病であり、ブタがヒトHEV感染の主な宿主であることが示唆された。
25	E型肝炎	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1094-1096	フランスの41歳女性が1ヶ月程、疲労感が続いたため、血液検査をしたところ、肝酵素値の著しい上昇を示し、HEV抗体、HEV特異的IgMおよびHEV RNAが検出され、E型肝炎と診断された。症状の出る8週間前に患者はフランス生まれのベトナムブタを飼い始めており、そのブタの血清から、HEV RNAが検出された。ブタのHEVは患者と同じ遺伝子型3で、ヌクレオチドで92%、アミノ酸で98%の相同性を有した。
26	E型肝炎	Infect Genet Evol 2007; 7: 368-373	エジプトCairoの労働馬をHEV暴露およびウイルス血症のエビデンスのため調査した。200頭からの血清検体中13%がIgG抗HEV抗体陽性であった。N-PCRにより100検体中4%でウイルス遺伝子が検出され、ウイルス血症のウマは1歳未満で、PCR陰性のウマに比べAST値の有意な上昇を示した。系統遺伝学的分析の結果、ウマ由来のウイルス株のHEV遺伝子は、エジプトでの2つのヒトHEV分離株と97-100%のヌクレオチド相同性があり、密接な関係を示した。
27	E型肝炎	J Gen Virol 2007; 88: 912-917	米国の地方の食料品店で売られている市販のブタレバー中にHEVが存在するかを調べるため、ブタレバー127パックを購入し、4つのHEVジェノタイプ全てを検出できるRT-PCRアッセイによって調べた。127検体中14例がHEV RNA陽性で、全てジェノタイプ3であった。PCR陽性のブタレバーホモジェネート3例をブタに接種したところ、3例中2例が感染した。市販のブタレバーには感染性のあるHEVウイルスを含有しているものがあることが明らかとなった。
28	E型肝炎	J Med Virol 2007; 79: 734-742	日本におけるアラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)高値供血者の無症候性E型肝炎感染の現況を調べた。日本赤十字血液センターでALT高値(61-476 IU/L)の献血者6700名の血清検体を検査したところ、479名(7.1%)の供血者が抗HEV IgG陽性であった。ALT $\geq$ 201 IU/L群はHEV RNA有病率が有意に高かった。ウイルス血症を発症した供血者9名から得られたHEV分離ウイルスは遺伝子型3に分類された。ALT $\geq$ 201 IU/Lの日本人の約3%はHEV株の無症候性感染を有することが示された。
29	E型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 283-288	英国サウスハンプシャーの単一施設において2005年6月から13ヶ月間にE型肝炎13例が発生した。これらの患者はルーチンのE型肝炎血清検査を導入開始後に特定された。同一期間中A型肝炎は2例、B型肝炎は4例であったことから、原因不明の急性肝疾患を発症し、関連する渡航歴のない患者全員にルーチンのE型肝炎検査を実施することが重要と考えられる。
30	E型肝炎	J Virol Methods 2007; 143: 112-116	オランダのブタにおけるHEV感染率を調べるため、97の養豚場で糞中のHEVの存在を検査した。HEV感染率は2005年では55%(53/97)で、1999年の22%(25/115)に比べ有意に増加した。しかし、2005年の検体を、1999年の測定と同様に希釈せず、内部標準なしで測定すると30%の感染率となり、有意差はなかった。糞中にはRNA PCR阻害物質が含まれるため、未希釈の検体では検出率が33%であったのに対し、10倍希釈した検体では55%であった。
31	E型肝炎	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.1): P203	2005年1月-2006年4月に北海道で献血者のHEV-RNAスクリーニングを行った。388,119名のうち、男性33名(1/7,120)、女性22名(1/6,962)がHEV-RNA陽性で、genotype 3が優勢であった。55名中40名は献血時のHEV抗体陰性であり、後に陽性となった。HEV陽性者にはALT値が上昇した人もいたが自覚症状はなかった。HEV-RNAは献血後、最長37日間検出された。HEV陽性献血者由来の輸血を受けた患者7名のうち、少なくとも2名が感染した。
32	E型肝炎	肝臓 2007; 48(Suppl.1): O-178	発症前からのウイルス血症の推移、肝炎発症から沈静化までの経過を観察しえた輸血後E型肝炎2例の症例報告である。1例は輸血21日目にHEV RNA (genotype 4)が検出され、44日目にピーク値を、もう1例は輸血後3日目にHEV RNA (genotype 3)が同定され、54日目にピーク値を示した。HEVウイルス血症は潜伏期間を経て発現し、対数増殖後約50日前後にピークを示し、その直後にAST、ALT上昇と血中抗HEV抗体の出現を順に認めた。